

6-7

大規模施設のグループケア化に向けての取り組み

～利用者のよりよい暮らしづくりのために～

意識改革

グループケア

品川区立荏原特別養護老人ホーム

ケアワーカー 渡辺 潤

ケアワーカー 青木 健

東京都品川区荏原 2-9-6

TEL : 03-5750-2941

E-mail : santokukai@aw.wakwak.com

FAX : 03-5750-3746

URL : <http://www.santokukai-ebara.or.jp>

今回の発表の施設
またはサービスの
概要

社会福祉法人三徳会が品川区より委託を受け運営している荏原ホームは平成9年に開設した特養120床、ショートステイ30床の大型特養施設です。施設では特養部分が3階4階に分かれ3階78名（内ショートステイ30名）4階72名の利用者が生活をされている広くて明るい施設です。

〈取り組んだ課題〉

- ケアワーカーが1日の業務に追われ業務主体になりがちである。（利用者主体ではない）
- 4階利用者72名の情報を全セクション間で共有するのが困難。
- フロアが広く食堂～居室間等の生活動線が長く無駄が多い。
- 利用者一人ひとりに合った暮らしの援助ができていない。

〈具体的な取り組み〉

- 利用者のより良い暮らし作りに向けてグループケア委員会を立ち上げた。
- ADL 均等型、ADL 混合型の二つの案が出たため、双方試行期間を設けて実施。
- 全職員対象に勉強会を開催。話し合いのもと、ADL 均等型のグループ分けに決定。
- 72名の利用者を3つのグループに分けた。
 - ・ Aグループ：全介助の方と自立度の高い利用者。
 - ・ Bグループ：独歩の方を含め認知症の方々が中心。
 - ・ Cグループ：ADLは低下しているが個々に係われば心身ともに能力を引き出せる方々。
- 生活スペースを3箇所配置し、生活動線を短くすることにより、居室とパブリックスペースの行き来が楽になるような大掛かりな居室変更を行った。
- 各グループのケアワーカーを固定し利用者の再アセスメントをより細かく行い情報を共有した。
- 利用者に合わせた生活リズムでの援助。
（体力や体調、要望に合わせた起床時間や食事時間・内容等）

〈活動の成果と評価〉

- 身体の保清の充実。
（手浴・足浴・陰部洗浄の徹底）
- 個々の排便リズムの把握ができ、自然排便を促す援助を行っていった結果、下剤使用者が減少した。
- 利用者それぞれが顔馴染みとなり、会話が多く見られるようになった。
- 利用者に合わせた外出援助やレクリエーションが充実してきた。
- ケアワーカーに利用者主体のケアという視点が培われてきた。
- ケアワーカーの中には以前に比べ家族とコミュニケーションを密に取る者が増え、利用者のニーズをより把握できるようになった。

〈今後の課題〉

- まだケアプランに沿ったケアが全員に出来ているわけではない。またケアプランもより生活に則した内容にしてゆく必要がある。
- 利用者一人ひとりの担当ケアワーカーがもっと利用者の情報を収集し個別ケアに反映していく。
- グループケア化は本来個別ケアを実践するための手段にすぎないので現状に満足せず、より利用者の生活の質の向上を目指してゆく。
- 利用者本位の視点が芽生えてきたので、更なるケアワーカーのレベルアップを図る。